



株式会社フコク(東証プライム:5185)
2026年5月26日

決算説明会

2026年3月期

Yes, We Do!

Copyright © Fukoku Co., Ltd.
All Rights Reserved.

本日は、お忙しい中、株式会社フコクの2026年3月期決算説明会をご視聴いただき、誠にありがとうございます。

本日の説明をさせていただきます株式会社フコク社長の大城でございます。

日頃から、フコク製品をご愛顧戴っている全てのお客様、株主の皆様、私達の企業活動を支えていただいている全ての関係者の皆様方に深く御礼申し上げます。

本日の説明の順番ですが、資料に基づき説明した後、皆様からのご質問にお答えいたします。

ご質問はチャットにて受け付けますので、ご質問のある方は画面右側より入力をお願いいたします。

それでは、始めさせていただきます。

Agenda

1. 決算のポイント
2. 2026年3月期実績
3. 2027年3月期業績予想
4. セグメント別・地域別の状況
5. 株主還元
6. 事業の取り組みの進捗
7. 次期中期経営計画に向けて

本日は、ご覧の通り、決算のポイントを簡単にご説明した後、2026年3月期の通期実績、2027年3月期の通期業績予想、セグメント・地域別の状況、株主還元、事業の取り組みの進捗、最後に次期中期経営計画に向けての順番でご説明させていただきます。

1. 決算のポイント

はじめに、決算のポイントです。

1. 決算のポイント

2026年3月期実績

売上高/増収 : 新製品や中国でのワイパーが好調な機能品事業を始め、ライフサイエンス事業、ホース事業が堅調に推移

営業利益/減益 : 原材料費の高止まりや労務費上昇等を、合理化や変動対応等で吸収しきれず

2027年3月期予想

売上高/減収、営業利益・経常利益/減益、当期純利益/増益

景気回復が続く一方、米国通商政策の動向や物価上昇の継続による景気下振れリスク、地政学リスクの高まりやエネルギー・原材料価格の変動リスク等を想定、中東情勢の影響を一定程度織り込む。収益拡大と資本効率向上を最優先とし、その実現に向け事業運営を強化

配当

2026年3月期の期末配当金は42.5円。中間配当金42.5円と合わせた年間配当金は85円

2027年3月期の年間配当金予想は100円 (**増配 : 前期比+15円**) を計画

2026年3月期の売上高は、新製品や中国でのワイパーが好調な機能品事業を始め、ライフサイエンス事業、ホース事業が堅調に推移し、増収となりました。一方、営業利益は、原材料費の高止まりや労務費上昇等を、合理化や変動対応等で吸収しきれず減益となりました。

これらを受けまして、2027年3月期の業績予想は、米国通商政策の動向、物価上昇の継続、エネルギー・原材料価格の変動リスク等を想定し、中東情勢の影響も一定程度織り込み、売上高は減収、営業利益と経常利益は減益、当期純利益は増益となる計画としております。

来期に向けて、持続的成長のための事業基盤を強固にするべく、収益性改善を最優先課題と位置づけ、事業構造の立て直しと収益力の強化に取り組んでまいります。

また、当期の年間配当金につきましては、期末配当金1株当たり42円50銭となり、中間配当金42円50銭と合わせて年間配当金は85円とさせていただきます。2027年3月期の配当につきましては、前年差15円増の1株当たり100円を計画しております。

2. 2026年3月期実績

次に2026年3月期の実績です。

2. 2026年3月期実績

業績概要（連結）

(単位：百万円)

	2025年	2026年	前年増減額	前年増減率
	3月期 通期 実績	3月期 通期 実績		
売上高	89,657	90,025	368	+0.4%
営業利益 (売上高対営業利益率)	4,721 (5.3%)	3,806 (4.2%)	△ 915 (△1.1pp)	△19.3%
経常利益 (売上高対経常利益率)	4,569 (5.1%)	3,864 (4.3%)	△ 705 (△0.8pp)	△15.4%
当期純利益 (売上高対当期純利益率)	2,931 (3.3%)	1,144 (1.3%)	△ 1,787 (△2.0pp)	△60.9%

※pp=パーセンテージポイント

**原材料費高止まり等の影響を合理化・売価反映等で吸収しきれず減益
当期純利益の減少は防振事業における9.1億円の減損損失の影響**

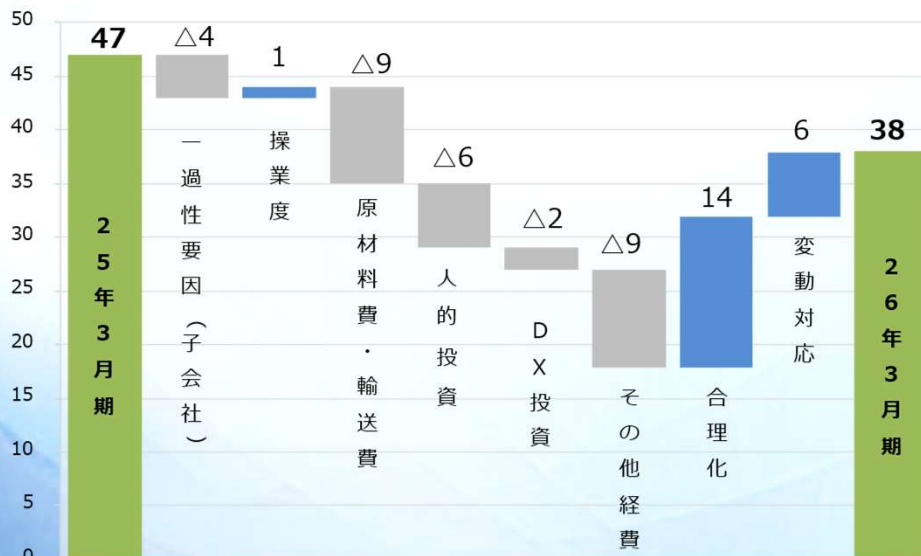
2026年3月期決算説明会 株式会社フコク(東証プライム:5185) 2026年5月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

ご覧の通り、売上高は、前年同期比4億円増の900億円と過去最高となりました。一方、営業利益、経常利益におきましては、原材料費高止まり等の影響を合理化・売価反映等で吸収しきれず減益となりました。なお、当期純利益の減少は防振事業における9億1千8百万円の減損損失の影響となっております。

2. 2026年3月期実績

差異要因_連結営業利益（前年比）

（単位：億円）



※25年3月期の利益には一過性要因+4億円を含む

2026年3月期決算説明会 株式会社フコク(東証プライム:5185) 2026年5月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

このグラフは、連結営業利益の対前年比の増減を要因別に示したものです。

増益要因としては、操業度による増益、合理化、変動対応で21億円のプラスに働きましたが、資源価格高騰等の影響により、原材料費・輸送費、経費等でマイナス30億円となりました。

経費の内訳といたしましては、持続的成長のための人的投資に6億円、生産性向上と業務効率化を目的としたDX投資に2億円、その他経費は研究開発費や諸経費増となっております。

2. 2026年3月期

財政状態、キャッシュ・フロー概要（連結）

(単位：百万円)

PL	2025年3月期 実績	2026年3月期 実績	前年増減額
売上高	89,657	90,025	368
営業利益	4,721	3,806	△ 915
経常利益	4,569	3,864	△ 705
当期純利益	2,931	1,144	△ 1,787

BS	2025年3月期 実績	2026年3月期 実績	前年増減額
流動資産計	45,597	48,043	2,446
固定資産計	33,804	33,643	△ 161
資産計	79,402	81,686	2,284
負債計	33,465	37,881	4,416
自己資本	43,274	40,869	△ 2,405
純資産計	45,936	43,805	△ 2,131
負債・純資産計	79,402	81,686	2,284

CF	2025年3月期 実績	2026年3月期 実績	前年増減額
営業活動によるCF	6,631	8,044	1,413
投資活動によるCF	△ 5,835	△ 5,384	451
財務活動によるCF	△ 640	△ 814	△ 174
フリー・キャッシュ・フロー	796	2,660	1,864

- 売上高の増加：
機能品・ライフサイエンス・
ホース事業の堅調な推移
- 当期純利益の減少：
防振事業における減損処理
- 流動資産の増加：
売上増加と借入金増加に伴う
現金及び預金の増加
- 負債の増加：借入金の増加
- 営業活動によるCFの増加
前年度の月末休日と
取適法（旧下請法）対応に伴う、
支払サイト短縮の影響が減少

2026年3月期決算説明会 株式会社フコク(東証プライム:5185) 2026年5月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

財政状態の状況は、ご覧の通りとなります。

バランスシートでは売上増加と借入金増加に伴う現金及び預金の増加により流動資産が増加しております。

キャッシュフローにおいては、前年度の月末休日と取適法対応に伴う、支払サイト短縮の影響が減少したことにより、フリー・キャッシュ・フローが増加しております。

3. 2027年3月期業績予想

続きまして、2027年3月期の業績予想についてご説明いたします。

3. 2027年3月期業績予想

業績予想（連結）

（単位：百万円）

	2026年	2027年	前年増減額	前年増減率
	3月期 通期 実績	3月期 通期 予想		
売上高	90,025	85,000	△ 5,025	△5.6%
営業利益 (売上高対営業利益率)	3,806 (4.2%)	3,300 (3.9%)	△ 506 (△0.3pp)	△13.2%
経常利益 (売上高対経常利益率)	3,864 (4.3%)	3,300 (3.9%)	△ 564 (△0.4pp)	△14.5%
当期純利益 (売上高対当期純利益率)	1,144 (1.3%)	2,300 (2.7%)	1,156 (+1.4pp)	+101.0%

※pp=パーセンテージポイント

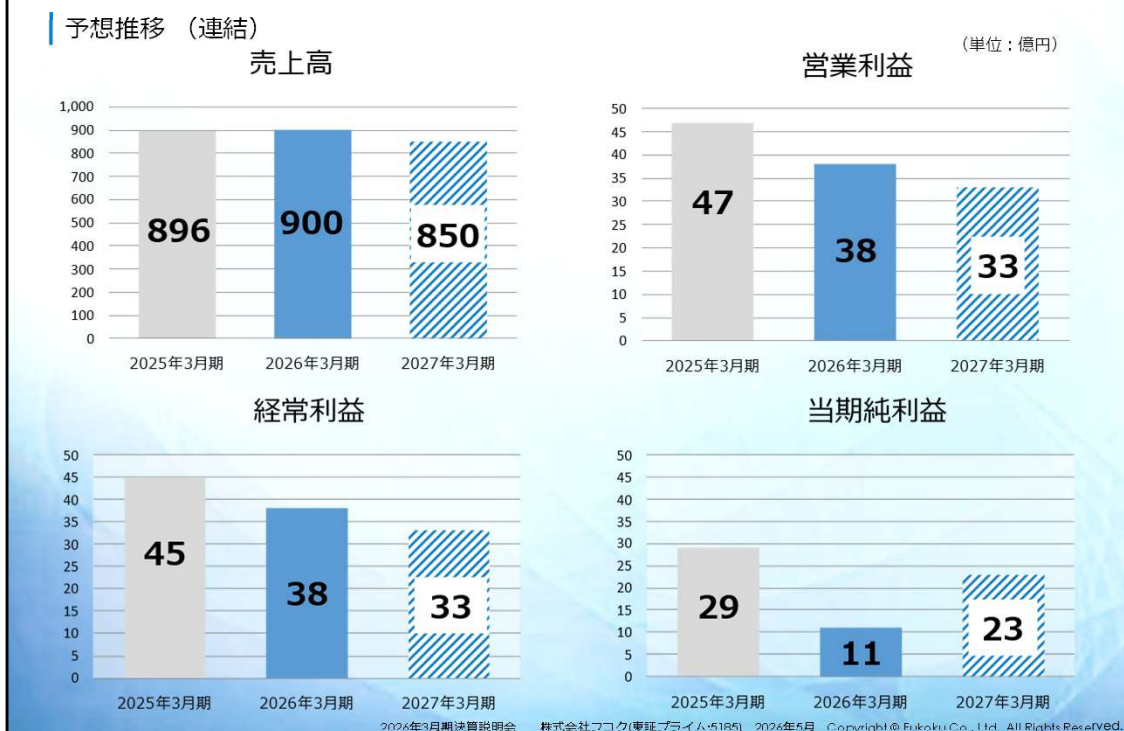
中東情勢等の影響を織り込み減収、営業利益・経常利益は減益、当期純利益は増益を計画

2026年3月期決算説明会 株式会社フコク(東証プライム:5185) 2026年5月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

当期の業績予想は、売上高850億円、営業利益・経常利益ともに33億円、当期純利益23億円を計画しております。

売上高については、雇用・所得環境の改善等を背景に景気回復が続く一方、国際情勢や物価上昇、金融資本市場の変動リスク等が予想され、直近での中東情勢等の影響も織り込み、減収、また、営業利益、経常利益につきましては減益の予想となります。当期純利益につきましては、2026年3月期の特別損失計上との比較により増益となります。

3. 2027年3月期業績予想



このグラフは、過去3年間の業績推移を表したものです。

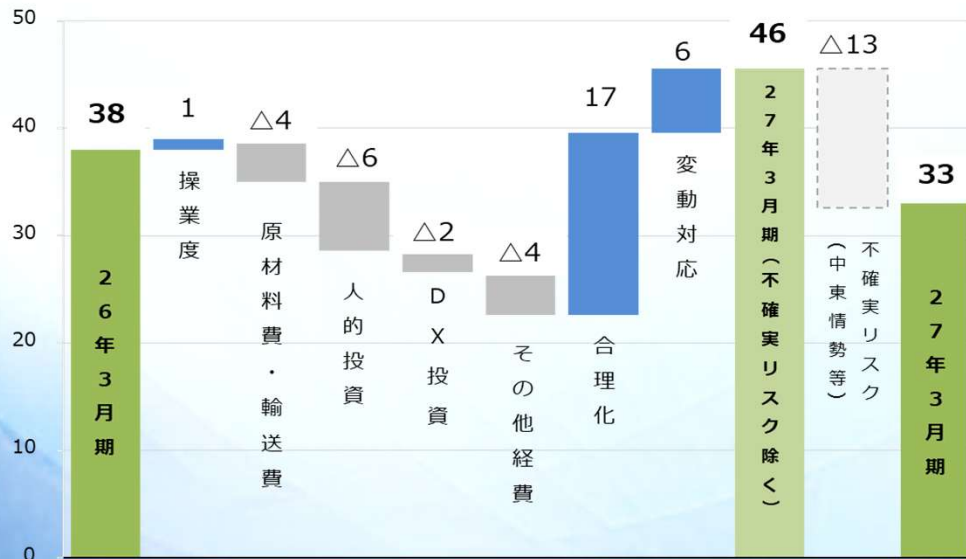
繰り返しになりますが、外部環境の影響が大きく、売上、営業利益、経常利益は、減収減益となっております。

合理化、原材料価格等の変動対応活動に継続して取り組み、影響を最小限に留め、事業構造の立て直しと収益力の強化に取り組んでまいります。

3. 2027年3月期業績予想

差異要因_連結営業利益 (前年比)

(単位: 億円)



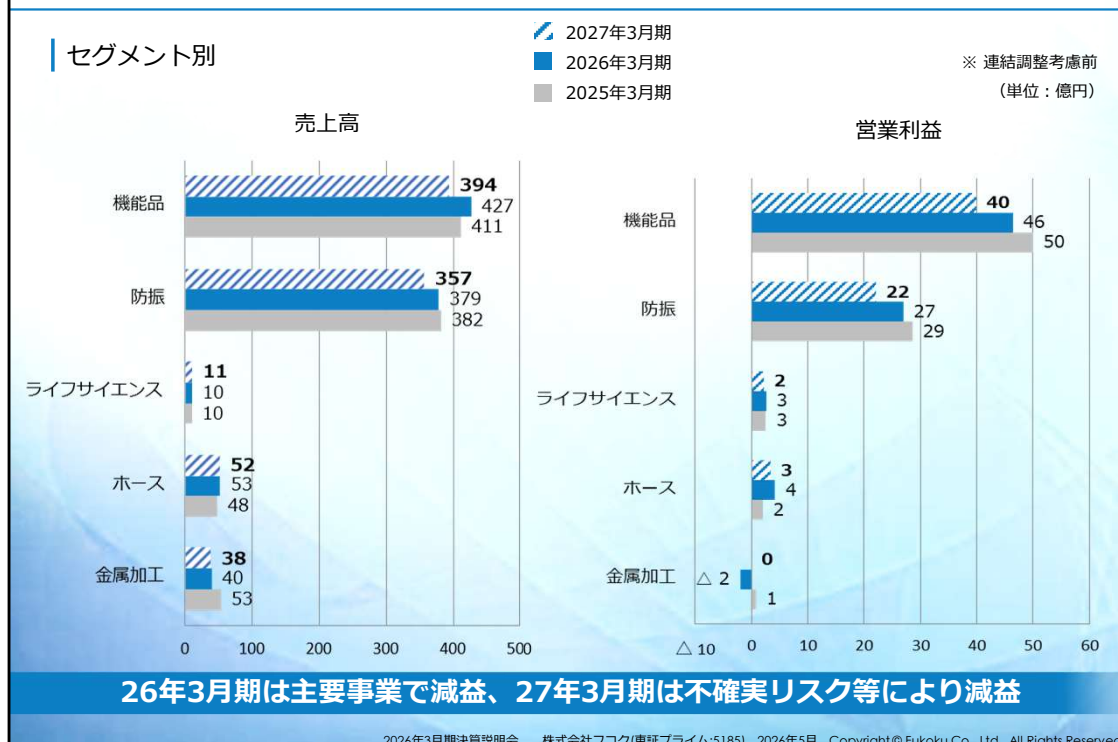
2026年3月期決算説明会 株式会社フコク(東証プライム:5185) 2026年5月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

このグラフは、連結営業利益の対前年比の増減を要因別に示したものです。2027年3月期は、合理化、変動対応等により増益の見込みでしたが、中東情勢の影響を織り込んだことにより、減益となる見込みです。

4. セグメント別・地域別の状況

次に、セグメント別・地域別の状況について、ご説明いたします。

4. セグメント別・地域別の状況



こちらはセグメント別の状況です。

それぞれ、2025年、2026年3月期の実績と2027年3月期の計画を表しています。上から順に、機能品・防振・ライフサイエンス・ホース・金属加工と、5つのセグメントで構成されています。

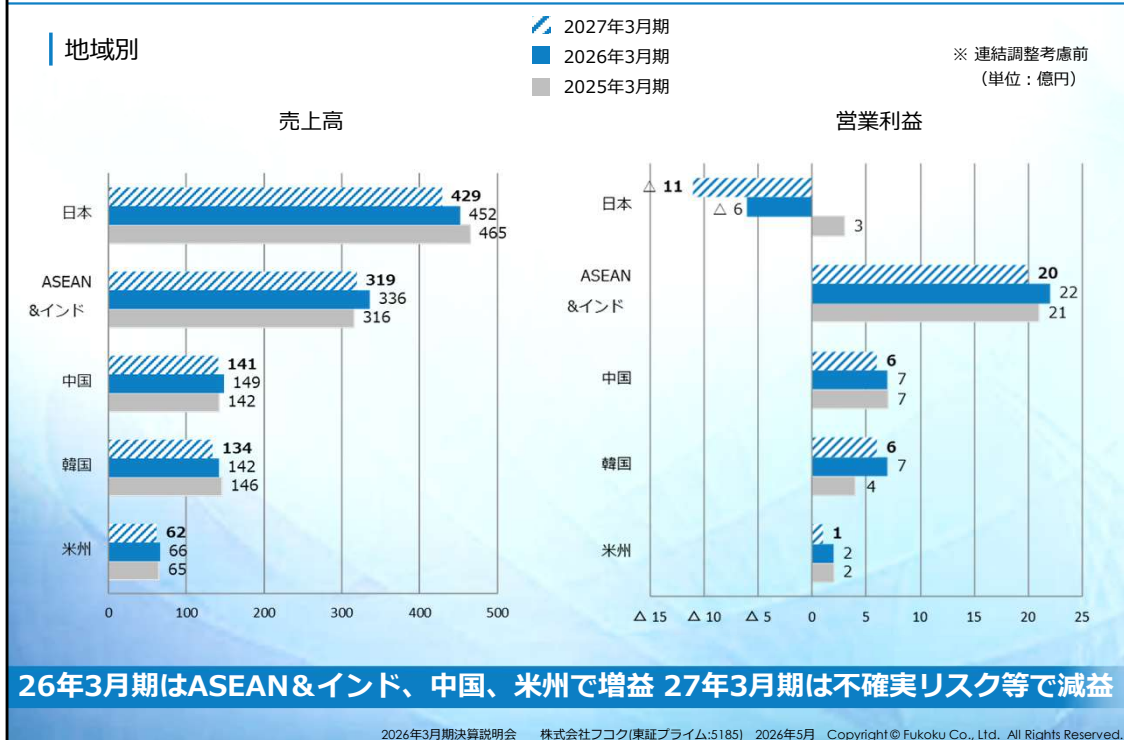
2026年3月期の売上高は、機能品事業、ライフサイエンス事業、ホース事業が増収、営業利益は、ホース事業が増益でしたが、その他の事業においては減益となりました。

機能品事業につきましては、当社が拡販に注力している放熱ギャップフィルター及び中国ローカルワイパーメーカー向け受注等が堅調に推移しました。営業利益は、生産性の向上や合理化、売価反映等の取り組みを進めたものの、原材料費や労務費等の上昇分を吸収できませんでした。

防振事業につきましては、受注が伸び悩んだことから、売上高は減収となりました。営業利益は、生産性の向上や合理化、売価反映等の取り組みを進めたものの、金具鋼材費や労務費等の上昇分を吸収出来なかったことに加え、前期の一過性の売上原価の戻しの反動があったことで、減益となりました。

2027年3月期は、中東情勢の影響を除くと各セグメントとも増収・増益基調となるものの、中東情勢の影響を反映し減収減益を見込んでいます。

4. セグメント別・地域別の状況



次は、地域別の状況です。2026年3月期につきましては、

日本は、原材料高・人件費の上昇の影響、および金属加工事業の選択と集中、また、建機市場の不振の影響により減収減益となりました。

アセアン・インド地域につきましては、メイン拠点であるタイ主力工場にて、歩留まり改善、不良低減等の変動費削減等により、増益となりました。

中国につきましては、日系自動車メーカーの需要の伸び悩みの影響を受けながらも、中国メーカー向けのワイパーブレードラバーの販売が伸びて増収、利益面では前期の一過性の費用良化の反動により前年並みとなりました。

韓国につきましては、EV向け製品の量産が好調でしたが関税影響なども受けて減収、内部努力により増益となりました。

2027年3月期は、増益基調ではありますが、中東情勢の影響を織り込み減益を見込んでいます。合理化・原価低減を進めることで利益への影響を最小限に抑えるべく尽力してまいります。

5. 株主還元

続きましてここからは、株主還元についてご説明いたします。

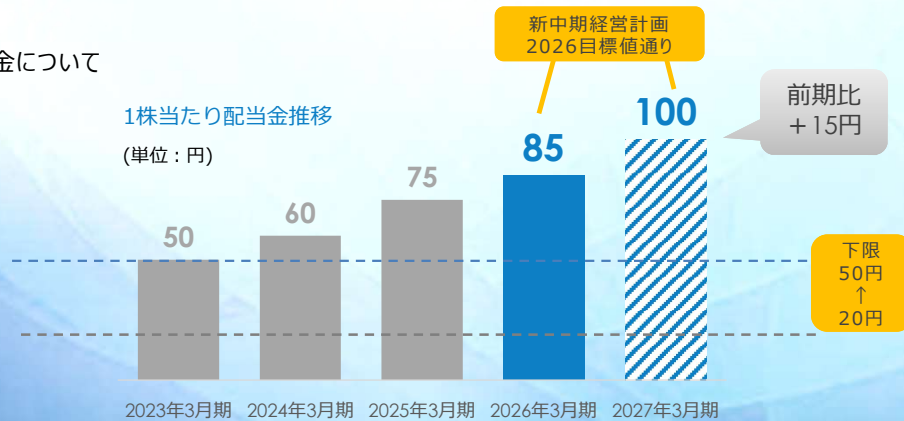
5. 株主還元

株主還元の考え方（配当政策の基本方針）

- 配当性向を**30%から40%**に、配当金下限を1株当たり**20円から50円**に引き上げる
- 1株当たり配当を実績は計画通り**85円**、計画を**100円**とする
- DOEも意識しつつ、今後も株主還元の充実を図っていく

※ 急激な経営環境の変化により著しく業績が低迷するような場合を除く

配当金について



2026年3月期決算説明会 株式会社フコク(東証プライム:5185) 2026年5月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

2026年3月期は、年間配当金を85円としておりましたが、計画通りの配当を実施いたします。

配当政策につきまして、2027年3月期より、基本方針を見直し、連結配当性向を30%から40%に、配当金下限を1株あたり20円から50円に引き上げました。

2027年3月期の年間配当金は、1株当たり100円を計画しております。今後は、DOEも意識しつつ、引き続き株主還元の充実を図ってまいります。

6. 事業の取り組みの進捗

続きまして、事業の取り組みの進捗につきましてご説明いたします。

6. 事業の取り組みの進捗

新中期経営計画2026 事業戦略の両輪

既存事業の強化

ソリューションビジネスによる拡販

- シミュレーション設計
～実車評価技術/中国 R & D強化
- インド R & D機能設置

強い成長地域への拡販

- インド・インドネシアでの技術・
生産体制強化

ものづくり力変革と人材育成強化

- 革新的工法の構築/自動化/IoT導入
- グローバル人材育成の強化

成長事業・新事業の拡大

インダストリアル向け製品等の拡大

- | | |
|--------------------|------------------------------|
| ファクトリー
オートメーション | 精密シールの開発/量産体制の確立 |
| 新エネルギー | 水素燃料用シール・
風力発電用着雪防止コートの開発 |
| 航空/宇宙 | 防振マウントの開発 |

CASE市場への拡大

- | | |
|-------|---------------------------------|
| バッテリー | ・進化し続けるEV製品用ホールドシート
の開発・拡販 |
| | ・放熱ギャップフィラー・
大型電池用防振製品の開発・拡販 |

ライフサイエンス製品の拡大

- | | |
|------|--------------------------|
| バイオ | 細胞培養バッグ・培地、化粧品原料 |
| 細菌検査 | 薬剤耐性菌検査チップの
量産体制確立、拡販 |

「新中期経営計画2026」の施策は、ご覧の通りです。

6. 事業の取り組みの進捗

既存事業の強化 – ソリューションビジネスによる拡販（ワイパー）

中国市場における事業拡大

テクニカルセンター機能の強化

開発設備を拡充し、短期化する製造サイクル
競争に勝ち抜くため開発速度に対応

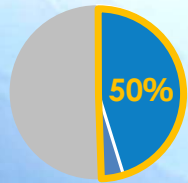
中国ローカルメーカーへのさらなる拡販

中国国内シェアを大きく拡大
中資系ワイパーシステムメーカーと協働し、欧州系メーカーへ拡販



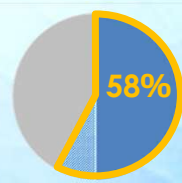
ワイパー世界シェア

2024年度

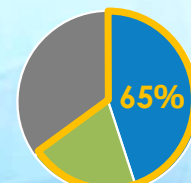


+ 8 ppt

2025年度



2030年度（目標）



グローバルでのソリューションビジネスを強化し、2030年にワイパー世界シェア65%を目指す

2026年3月期決算説明会 株式会社フコク(東証プライム:5185) 2026年5月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

既存事業の強化としましては、ソリューションビジネスによる拡販を推進しており、特にワイパー事業では、中国市場における事業拡大として、テクニカルセンター機能の強化を進めてまいりました。

中国ローカルメーカーへのさらなる拡販を進めており、中国国内シェアを大きく拡大し、あわせて中資系ワイパーシステムメーカーと協働して、欧州系メーカーへの拡販も行っています。

結果として、ワイパーブレードラバーの世界シェアは2024年度の50%から8ポイント上昇し、58%となっています。
2030年には世界シェア65%まで確保することを目指しております。

6. 事業の取り組みの進捗

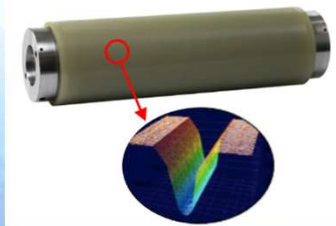
既存事業の強化 – ソリューションビジネスによる拡販（ウレタン）

半導体シリコンウェーハ製造用ワイヤーソーのウレタンローラー世界トップシェア （防振セグメント）

一貫した生産体制によりお客様のトータルソリューションに対応
一貫生産で高品質・短納期を実現
お客様のローラー芯金のメンテナンスによる精度・耐久性向上

フコク独自開発技術で長寿命化と大物成型を実現

独自の配合による特殊ウレタンにより耐摩耗性と耐液性を向上させて長寿命化
独自の調合技術で一般的な材料では成形できなかった大物成型が可能



インゴットワイヤーソー用メインローラー



ワイヤーソー用ローラー、ウレタンブリー

半導体関連の売上の拡大、新規顧客の獲得、事業領域拡大を目指す

2026年3月期決算説明会 株式会社フコク(東証プライム:5185) 2026年5月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

次に、ウレタン製品をご紹介します。

半導体シリコンウェーハ製造用ワイヤーソーのウレタンローラーでは、世界トップとなる30%のシェアを持っています。

全ての工程を自社内で一貫生産することにより、高い品質確保と最短のリードタイムを実現しています。

また、お客様のローラー芯金のメンテナンスを実施して、加工製品の精度維持や装置の耐久性に貢献しております。

自社開発の配合による特殊なウレタン材料で耐摩耗性と耐液性を向上させて長寿命化を実現しており、独自の調合技術で一般的な材料では成形できなかった大物成型も可能にしています。

AIの普及、データセンターやクラウドサービスの拡大による半導体需要の高まりは、当社のウレタン製品の追い風となっています。

売上の拡大と新規顧客の獲得を目指すとともに、半導体関連分野でのさらなる事業領域の拡大を図ってまいります。

6. 事業の取り組みの進捗

既存事業の強化 – 強い成長地域への拡販（インド）

R&D強化

営業拠点強化

価格競争力強化

日系メーカー以外への拡販

ダンパー

日系に加えて、韓国系との取引を開始



ダンパーブリー

ワイパー

日系+インド系でシェア拡大継続



ワイパー

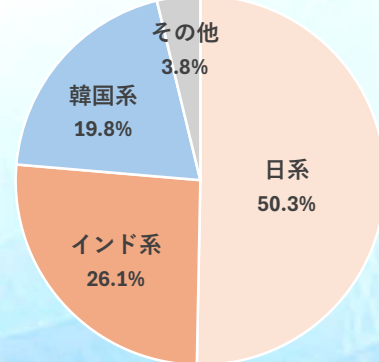
自動車以外の市場開拓

建機・農機、鉄道、バッテリー製品
市場開拓を推進中



ビスカスマウント

インド市場における自動車販売
カーメーカーシェア



出所：インド自動車工業会 (SIAM)

インド市場の成長を大きく上回る成長を持続

2026年3月期決算説明会 株式会社フコク(東証プライム:5185) 2026年5月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

また、引き続きインド事業への注力を行っております。

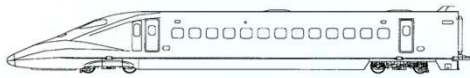
成長著しいインド自動車市場の中で、半分を占める日系メーカーへの拡販を進める他、韓国系メーカーとダンパーの取引を開始しました。インド系メーカーへのワイパーの拡販も進めております。

加えて、自動車以外に建機・農機、鉄道、バッテリー関連製品も開拓を推進し、引き続き、さらなる成長が期待できるマーケットで、事業拡大に取り組んでまいります。

既存事業の強化 – 強い成長地域への拡販（防振事業）

鉄道の部品を着実に受注（日・中・インドネシア）

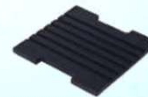
参入障壁の高い鉄道事業において、
JR、インドネシア国営鉄道（INKA）より受注



一本リンク緩衝ゴム



（貨物向）軸ゴム



軌道パッド

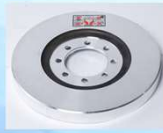


幅広い市場へ積極的に進出（建機・農機・船舶）

【建機・農機部品】 欧米市場へ販路拡大
【船舶関連部品】 従来実績を元に新規受注獲得



ビスカスマウント



ビスカスタンパー



2026年3月期決算説明会 株式会社フコク(東証プライム:5185) 2026年5月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

次に、防振事業についてです。

鉄道製品は、日本では一般車両から新幹線、リニアモーターまで幅広く受注していますが、中国市場でも鉄道向け防振製品を生産、納入しており、これまでの実績をもとにアセアンエリア、特にインドネシアでの拡販にも注力し、インドネシア国営鉄道からも受注を獲得しております。

また、建機・農機部品は欧米市場へ販路を拡大、船舶関連でも新規受注を獲得しました。お客様から信頼いただいている技術力、対応力を生かしてグローバルでの拡販を続けてまいります。

既存事業の強化 – 強い成長地域への拡販（米国）

韓国子会社と共同で新米国人設立（米国バージニア州）

韓国系メーカー向け製品を足掛かりに、米国での拡販・新規市場開拓
製品ラインナップ拡充、米国市場での事業基盤を強化

FKC America, Inc. (完成イメージ図)



ダンパーブリー



放熱ギャップフィラー

2027年1月工場稼働予定

2026年3月期決算説明会 株式会社フコク(東証プライム:5185) 2026年5月 Copyright © Fukuoka Co., Ltd. All Rights Reserved.

米国においては、今年2月に韓国子会社と共同で新法人を立ち上げました。

設立の目的の一つは関税対策ですが、韓国系メーカー向け製品を足掛かりに、米国での拡販・新規市場開拓を目指しています。

製品ラインナップを拡充し、米国市場での事業基盤を強化してまいります。

既存事業の強化 –モノづくり力変革

自動化・工法改善事例

機能品事業・ワイパーブレードラバー
生産工程の自動化・省人化



機能品事業・樹脂ブーツ製品
工法改善による生産性向上



ロボット活用事例

防振事業
ビスカスマウント
製造工程の
協働ロボット導入



ゴム練り工程
配膳ロボット
活用



工法改善・生産自動化・一貫生産など抜本的な変革により、コスト競争力を徹底強化

生産現場ではモノづくり力の変革を推進しております。

機能品事業において、ワイパーブレードラバーの生産工程の自動化、樹脂ブーツ製品の工法改善による生産性向上を図っております。
防振事業においてはビスカスマウント製造工程の協働ロボットを導入し、ゴム精練工程では配膳ロボットを活用して自動化を図っております。

生産現場での工法改善、自動化、一貫生産など、抜本的な変革により、コスト競争力を徹底強化してまいります。

6. 事業の取り組みの進捗

成長事業・新事業の拡大ーバッテリー周辺製品

バッテリー周辺製品への注力

バッテリーホールドシート/ギャップフィラー

熱マネジメント

将来の電動化拡大を見据えラインアップ拡充、多様なニーズへの対応
AI普及に伴うデータセンター等を含む各種の熱マネ課題へも貢献していく

バッテリーホールドシートのラインナップ						
温度域	800℃		600℃		400℃	
構成	3層積層● 断熱材+弾性体	単層 断熱材	3層積層● 断熱材+弾性体	単層 断熱材	2層積層● 断熱材+弾性体	単層● 弾性体

放熱ギャップフィラーのラインナップ						
アプリケーション例	ギャップフィラー (2液硬化型)				グリース	シート
	離型タイプ	接着タイプ	電磁波吸収	離型タイプ	高耐熱	低反力
車載バッテリー ウォーターポンプ カメラ センサー 車載用OBC HEV駆動モータ DC-DCコンバータ 次世代インバータ ECU キャパシタ データセンター用CPU/GPU						車載電池・定置型蓄電池バッテリー

2026年3月期決算説明会 株式会社フコク(東証プライム:5185) 2026年5月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

続いて、「成長事業・新事業の拡大」について説明いたします。

電気自動車への転換速度は地域的に停滞も見られますが、将来的な電動化の拡大を見据えて、多様なお客様のニーズに応えるべく、バッテリーホールドシートと放熱ギャップフィラーのラインアップをご覧の通り拡充してまいります。

また、AIの普及・拡大でデータセンター等の熱の問題もクローズアップされてきており、各種の熱マネ課題へも貢献してまいります。

6. 事業の取り組みの進捗

成長事業・新事業の拡大－宇宙事業開発

次世代技術開発で、宇宙分野の競争力強化へ

JAXA 宇宙戦略事業基金に採択

宇宙防振

採用テーマ「広温度域で使用可能な振動減衰機構」の開発

高G対応非線形ゴムアイソレータ

(適用範囲：-40℃～110℃)



スペースシリコンラバー
商標登録第6956327号
当社独自開発の
宇宙空間適応シリコンゴム

極低温対応ワイヤアイソレータ

(適用範囲：-170℃～110℃)



■ 宇宙向け防振ゴム製品の実績を基盤に開発

■ 人工衛星等の打上げ環境から軌道上まで搭載物を一貫保護

■ 極低温・高放射線の極限環境下においても機能



当社は宇宙分野にも注力しており、この度、JAXAの宇宙戦略事業基金に採択されました。

開発テーマは「広温度域で使用可能な振動減衰機構」であり、当社独自開発の宇宙空間適応シリコンゴムを活用したアイソレータの開発など、宇宙分野での競争力強化を目指しています。

6. 事業の取り組みの進捗

成長事業・新事業の拡大－ライフサイエンス

新製品発売で製品ラインナップ拡大

細胞培養バッグ・培地 新製品「活性化NK細胞大量培養キット」

細胞別培地、用途別バッグの開発強化 世界最大市場の中国で生産現地化推進

細胞別培地

用途別バッグ

活性化NK細胞大量培養キット

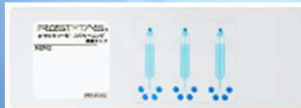


細菌検査

新製品「RaST-TAS腸内細菌目細菌用試薬チップ」

早期の保険適用取得申請・売上拡大・医療現場への本格展開を目指す

β-ラクタマーゼ・スクリーニング試薬チップ



RaST-TAS腸内細菌目細菌用試薬チップ NEW!



2026年3月期決算説明会 株式会社フコク(東証プライム:5185) 2026年5月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

次に「ライフサイエンス製品の拡大」について取り組みをご説明させていただきます。

バイオ製品では、技術的強みを活かしたソリューション提案に注力しています。細胞別培地、用途別バッグの開発力を強化しており、今年3月より新製品「活性化NK細胞大量培養キット」を発売しました。

事業規模拡大に向け、世界最大市場の中国での生産の現地化も推進してまいります。

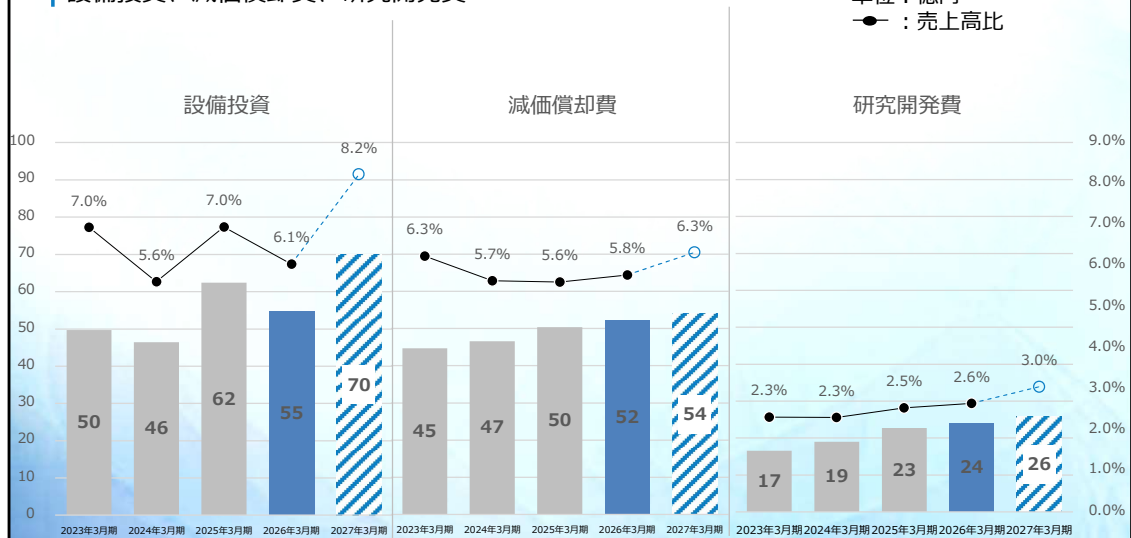
細菌検査分野では、今年2月に「RaST-TAS腸内細菌目細菌用試薬チップ」を発売し、薬剤耐性菌検査チップの拡販も進めております。

今後保険適用を取得し、売上拡大・医療現場への本格展開を目指してまいります。

6. 事業の取り組みの進捗

設備投資、減価償却費、研究開発費

単位：億円
●：売上高比



27年3月期は設備投資と研究開発費を増やし、次の成長に向けて基盤強化

2026年3月期決算説明会 株式会社フコク(東証プライム:5185) 2026年5月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

こちらは設備投資、減価償却費、研究開発費の推移です。

設備投資は2026年3月期はBEV化の遅れなどにより、設備投資計画を修正し前年を下回りました。

2027年3月期は、減収・減益の見通しの中においても、必要な投資や研究開発費を織り込んで、次の成長に向けた基盤の強化を図ってまいります。

7. 次期中期経営計画に向けて

最後に、次期中期経営計画に向けてご説明いたします。

7. 次期中期経営計画に向けて

現中期経営計画の最終年度目標の見直し

- ・ 来期の通期業績目標は、「新中期経営計画2026」の目標値と大幅に乖離
- ・ 事業環境は大きく変化し、内部努力だけでは対処しきれない状況
- ・ 現在の延長線上での成長には一定の見直しが必要

地政学リスクの高まり

米国関税措置

為替変動

物価高・原材料費高

BEV化の減速

・ 現中期経営計画の数値目標は一旦取り下げ

「新中期経営計画2026」の最終年度目標値（公表時）及び2027年3月期通期連結業績予想

	目標値（公表時） （2023年6月）	通期連結業績予想 （2026年5月）	差
売上高	1,200億円	850億円	△350億円
営業利益率	8.0%	3.9%	△4.1%
ROE	12.0%	6.0%	△6.0%

2026年3月期決算説明会 株式会社フコク(東証プライム:5185) 2026年5月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

5月15日に開示いたしました「中期経営計画の「見直し」に関するお知らせ」の通り、今期は減益、また来期の通期業績目標は、「新中期経営計画2026」の目標値と大幅に乖離した状況にあります。

新中期経営計画2026は、自動車産業におけるBEV化進展やグローバル需要の回復、半導体需要の拡大を前提としていましたが、BEV化市場の停滞、OEM各社の生産変動、原材料の高止まり等、当社を取り巻く事業環境は大きく変化しており、内部努力だけでは対処しきれない状況下にあります。

この変化を踏まえると現在の延長線上での成長には一定の見直しが必要と考えました。

このため、当社は収益の拡大と資本効率の向上を最優先とし、その実現に向けて事業運営を強化していきます。

2026年度を「変革フェーズ」と位置づけ、将来成長に向けた経営改革をスタートしました。

これに伴い、現中期経営計画の数値目標を一旦取り下げることとしました。

7. 次期中期経営計画に向けて

次の成長に向けて

持続的成長のための強固な事業基盤構築を最優先とし、事業運営を強化。
2026年度を「**変革フェーズ**」と位置づけ、経営が強くコミットし変革に取り組む。

稼ぐ力の更なる向上	赤字・不採算製品の削減、原価低減の推進
市場戦略強化	当社の製品・市場の強みが活かせる市場への取組の強化
モノづくり力強化	開発・生産・製造プロセスを改革、将来型工法を実現
M&Aも活用した 新規事業の立ち上げ	M&Aも活用し新事業を創出

2026年度の変革を踏まえ、2027年度を初年度とする次期中期経営計画において、
稼ぐ力の強化を軸に収益性・資本効率を高め、持続的成長と企業価値向上を目指す。

長期的には、当社独自のコア技術で高付加価値商品やソリューションを提供することで、
サステナブルな社会の実現に貢献できる“心から愛される企業”を目指す。

2027年3月期は「持続的成長のための強固な事業基盤構築」を最優先課題と位置づけ、経営が強くコミットし変革に取り組んでまいります。

具体的な取り組みは4つです。

一つ目は「稼ぐ力の更なる向上」として、赤字・不採算製品の削減、原価低減を推進してまいります。

二つ目が「市場戦略強化」です。当社の製品・市場の強みが活かせる市場への取り組みを強化いたします。

三つ目は「モノづくり力強化」です。開発・生産・製造プロセスを改革し将来型工法を実現いたします。

最後の四つ目は、「M&Aも活用した新規事業の立ち上げ」です。

バッテリー周辺など電動化関連の新製品やソフトマテリアル事業などの新しい事業の創出に、M&Aの活用も視野に入れて取り組めます。

以上の2026年度の変革への取組みを踏まえ、2027年度を初年度とする次期中期経営計画において、
稼ぐ力の強化を軸に収益性・資本効率を高め、持続的成長と企業価値向上を目指していきます。

そして、長期的には、当社独自のコア技術で高付加価値商品やソリューションを提供することで、サステナブルな社会の実現に貢献できる“心から愛される企業”を目指してまいります。



今後ともご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。
以上で、終了させていただきます。
誠にありがとうございました。



Yes, We Do!

注意事項

- ◆ 本資料には、株式会社フコクおよびそのグループ会社の戦略、経営計画等の将来予測に関する記述を含んでいます。本資料における記述のうち、過去又は現在の事実に関するもの以外は、将来予測に関する記述に該当します。これら将来予測に関する記述は、現時点において入手可能な情報に鑑み株式会社フコクおよびそのグループの仮定および判断に基づくものであり、その性質上、これらにはリスクや不確実性を内在しております。従って、当社を取り巻く事業環境、将来の業績、経営結果等と異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。
- ◆ 本資料に記載されている将来予測に関する記述は、本資料作成日現在時点のものであり、当社はそれ以降に判明した新たな情報や将来の事象により、本資料に掲載された情報を最新のものと変更する義務を負うものではありません。

2026年5月26日 株式会社フコク